

阿蘇草原再生協議会について

阿蘇くじゅう国立公園（阿蘇草原地域）は、世界最大級のカルデラ地形とその上に広がる広大な草原景観の優美さが相まって、年間1,900万人もの観光客が訪れている。

この草原は一千年以上に及ぶ放牧、採草、野焼きといった農畜産業活動の結果として維持されてきたものであるが、農業形態や生活様式の変化、高齢化等により、草原維持のための作業を行うことが困難になりつつあり、近年は草原の面積の減少や変容が進み草原環境の悪化が進んでいる。

環境省は平成15年度から「阿蘇草原再生懇談会」を開催し、大学・研究機関、地元農業者、NPO等と連携・協働して実証試験やモデル的試行事業を重ねつつ、阿蘇の草原再生に向けて検討を行ってきた。平成17年3月には環境省が草原再生に取り組むにあたっての目標、基本方針、施策案などを示した「阿蘇草原地域自然再生推進計画」を作成した。

平成17年12月に自然再生推進法に基づく「阿蘇草原再生協議会」を設立。
(阿蘇の草原の維持、保全及び再生を図ることを検討。)

平成19年3月には「阿蘇草原再生全体構想」が作成された。

第1回自然再生協議会（平成17年12月2日）

・協議会の設立

第2回自然再生協議会（平成18年3月22日）

・全体構想（骨子案）の協議

第3回自然再生協議会（平成18年12月14日）

・全体構想（素案）の協議

第4回自然再生協議会（平成19年3月7日）

・全体構想（最終案）の協議、了承

阿蘇草原再生全体構想 作成（平成19年3月）

「阿蘇草原再生全体構想」の概要

自然再生の対象となる区域

熊本県阿蘇市及び阿蘇郡（南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村及び南阿蘇村）内の草原及びその周辺とし、過去に草原であった場所も含む。

自然再生の目標

< 目標 >

草原の恵みを持続的に活かせる仕組みを現代に合わせて創り出し、かけがえない阿蘇の草原を未来へ引き継ぐ。

（目指す姿）

・暮らしに恵みをもたらす草原

地域の人々の暮らしと草原が密接に関わり、草原の恵みを持続的に享受できる仕組みが動いている。

・人と生き物が共生する草原環境

盆花に象徴されるように、多様な動植物が育まれる豊かな草原環境が保たれている。

< 分野別目標 >

地域内外の様々な人々の連携と参加による取り組みの推進

・美しく豊かな草原の再生

・野草資源でうるおう農畜産業の再生

・草原に囲まれて人々が生き生きと暮らす地域社会の再生

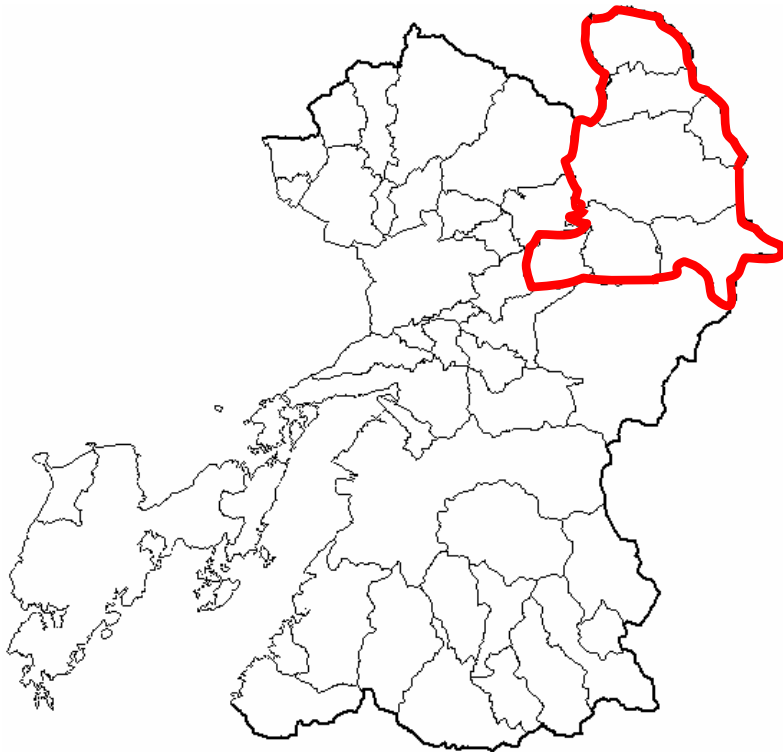
自然再生協議会の構成員

個人(専門家含む) 44、団体 66、

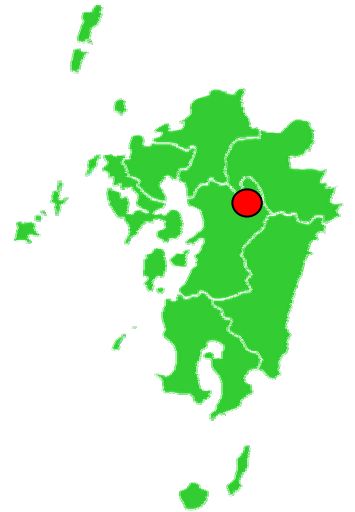
関係地方公共団体 12、関係行政機関 2

合計 124(個人・団体) 平成 19 年 3 月現在

阿蘇草原再生協議会

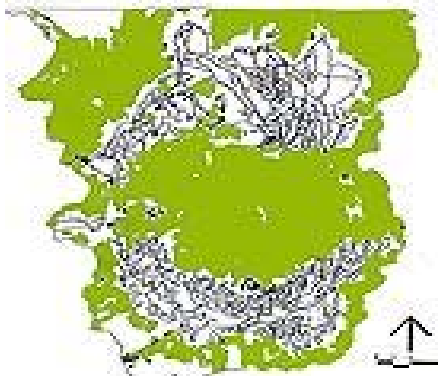


自然再生の対象となる区域（協議会設置要綱より）

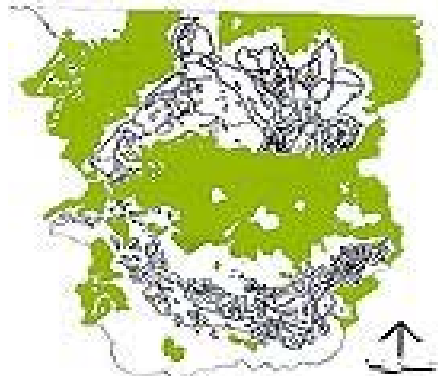


野焼きによる草原の維持

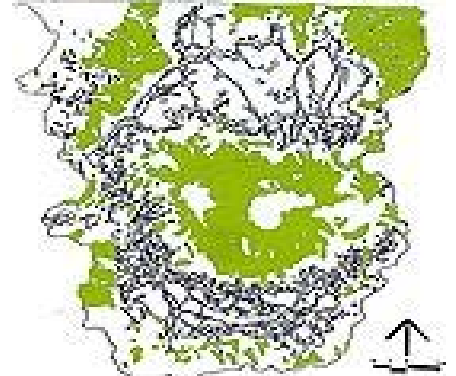
阿蘇の草原面積の変遷
(国土地理院発行地形図より判読)



明治大正期



昭和20年代



現代

草原面積が大幅に減少 緑色部分が草原



高齢化等により 輪地切り
作業等の管理が困難
(ボランティアの導入、輪地切
り省力化)



野焼き作業の休止により、草原
から低木林化しつつある
(火入れによる再草原化)



草原性の希少種であるハナシノブ
(絶滅危惧IA類)の生息環境の悪化
(採草管理による生息環境の保全)